

令和6年度 長野県食と農業農村振興審議会 木曽地区部会 議事録

令和6年7月22日（月）午後1時30分から、木曽合同庁舎講堂において令和6年度長野県食と農業農村振興審議会木曽地区部会を開催しました。

1 出席委員 五十音順（敬称略）

大久保 和典 委員 木祖村西山地区活動組織代表
奥牧 春樹 委員 木曽優良子牛パワーアップ協議会会長
高橋 徳 委員 木曽郡農業委員会協議会会長
田中 芳男 委員 木曽農業協同組合営農アドバイザー
田屋 万芳 委員 木曽農業協同組合代表理事組合長
都竹 亜耶 委員 長野県農村生活マイスター木曽支部長
富井 聡美 委員 女性農業委員（消費者）
野口 廣子 委員 直売所夢人市、木曽すんき愛好会
村田 布紗子 委員 木曽郡学校栄養士会会長

2 次第及び議事録

(1) 開会

(2) あいさつ 木曽農業農村支援センター 倉田所長

(3) 自己紹介 出席委員

(4) 部会長選出

部会長 田屋万芳 委員 木曽農業協同組合代表理事組合長

(5) 会議事項（議長 田屋 万芳）

【田屋部会長あいさつ】

皆様お疲れ様でございます。

ただいま部会長に任命されました、JA 木曽の田屋万芳と申します。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

この部会は地域の農業農村の振興策の方向性を検討する大変重要な役割を担っておりまして、皆様方のご協力を賜りまして、円滑な運営に努めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

関東甲信越地方は7月18日に梅雨明け宣言がされて、連日猛暑が続いております。それに合わせ、熱中症だけでなく11波のコロナが流行ってきておりまして、施設も非常に神経を使っているというような状況でございますので、皆様方もどうぞ自愛いただきたいと思っております。

管内の農業情勢についてお繋ぎをさせていただきますと、今年度は御岳はくさいの出荷が木祖村から6月18日、開田高原から6月20日に初出荷となったところであります。

初出荷は1ケース1,400円ほどの値段でございました。

春先は非常に野菜の値段が高騰しておりまして、キャベツ一つ900円～1000円というような報道をされていましたが、その反動か、6月に入って非常に野菜の価格が低迷してまいりました。

木曽地方では大型のレタス農家はおりませんが、塩尻や南佐久等はレタス類に関して7月7日から県の緊急の調整事業が発令されたところでありまして、平たく言えば、価格が低いので畑にあるレタスを出荷せずその場で廃棄してしまうという、消費者といたしましても私もJAといたしましても、非常にもったいないと考えるわけですが、価格の面で仕方ないというところでもありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

また、先ほど奥牧さんから話あった通り、子牛の市場価格も、残念なことに全国的に安値が続いているところでありまして、木曽市場は全国に比べれば若干良い値ではありますが、一時の平均価格と比較するとずいぶん安くなってきてしまっているというようなところでございます。

6月が平均で57万円ほどの子牛の価格です。

またお米に関しては、昨年の猛暑とこのインバウンドの増加により、非常に米需要が拡大しております。

それにより、6月の指数であります、60キロ換算で15,800円ほどということで、この価格は過去10年間で最高値を記録していると新聞等でも報道されているところでもあります。

さて、本日は長野県食と農業農村振興計画の第4期5か年計画のちょうど2年目にあたる年であり、昨年までの計画の実施状況と令和6年度の実行計画について、それぞれ意見を賜りたいと考えているところであります。

また併せて、今回は県政においても横断的な課題である少子化・人口減少対策についても、農業農村の視点から意見提言を県の審議会の方へ寄せていただきたいという依頼もございまして、委員の皆さんにおかれましては、それぞれのご専門のお立場から忌憚のないご意見を頂戴したいと考えているところであります。

今後、木曽地域の農業がもっともっと明るく希望が持てるよう、皆様にお願ひ申し上げて、議長就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。

本日は短い時間ではありますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

続いて、代理人の氏名を申し上げたいと思ひます。

議事に入る前に私の方からご指名申し上げますのでお願ひいたします。

昨年度木曽郡の農業委員会協議会長の伊藤さんにお願ひしていただきましたので、今年から、先ほど話ありましたように、高橋徳様にお願ひしたいと思ひます。

よろしくお願ひいたします。

もう1点、議事録の公開の確認について、お諮りいたします。

この部会につきましては、木曽部会の設置規定第4条(7)に、会議は原則として公開すると規定されております。

また、県で設置する審議会につきましては、審議会等の設置及び運営に関する指針に基づいて原則好機とされていることから、当部会におきましても、傍聴および議事録会議資料の公表により公開することとしてよろしいでしょうか。

皆さんにお諮りをしたいと思います。

ご意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それで意見がありませんので、その旨事務局で対応をよろしくお願いいたします。

それでは早速議事に入ってまいりたいと思います。

次第にあります通り、会議事項の(1)長野県食と農業農村振興計画令和5年度の実績について、事務局から説明をお願いいたします。

[(1) 令和5年度取組実績について] (資料1) (説明：太田係長)

(田屋部会長)

ありがとうございました。

ただいま説明のありました、長野県食と農業農村振興計画令和5年度の実績について、重点事項4点について説明を事務局からいただきましたが、委員からご意見ご質問があれば受け付けます。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(意見・質問なし)

もしあれば後ほどということをお願いしたいと思います。

次に進めさせていただきます。

次第にある(2)長野県食と農業農村振興計画令和6年度実行計画について、事務局から説明をお願いいたします。

[(2) 長野県食と農業農村振興計画令和6年度実行計画について (資料2)]

(説明太田係長)

【田屋部会長】

ただいま説明がありました、農業農村振興計画の令和6年度実行計画について、県で重点事項3点、木曽で重点事項4点、木曽ブランド含め地産地消等食育の推進から始まり色んな

説明をいただきました。

ご意見ご質問ありましたらお願いしたいところではありますが、いかがでしょうか。

木曽地方は全県に比べると生産物が少なく、耕地面積も少ないということで、大きなところとは比較にならないところもありますが、そうはいつでも木曽ブランドのものもありますので、そのブランドを今後少しでも成長・振興していけるようお願い申し上げたいと思っておりますが、委員の皆様なにかありましたらいかがでしょうか。

(意見・質問なし)

それでは次に進めさせていただきたいと思います。

ただいま事務局から説明いただきましたが、各委員さんより、それぞれの専門の立場からご意見提言をいただき、それについて議論をしていきたいと思います。

長野県全体の施策体系についてと、木祖の地域別計画それぞれにつきまして、ご意見提言をいただきたいと思いますが、時間の関係もございいますので、誠に恐縮ではありますが、1人2～3分で意見集約してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

先ほどの自己紹介の順番で、奥牧委員よろしく願いいたします。

【奥牧委員】

今木曽管内に繁殖牛の農家が70戸弱の軒数で、頭数は600頭余かと思います。

そんな中で、この計画の中にも1戸当たりの出荷頭数も出てますが、いずれにしましても、今価格が安く生産資材が高騰している中で、実はこの繁殖事業は種がついて産ませられることができれば、みんな頑張ってやるということです。

そのような中で、講習会を含めて、資料にも飼養管理のことも書いてありますが、何とか皆様に繁殖を頑張っていただければ。

産まれれば何とかやろうと思う農家が多いと思いますので、ぜひ繁殖の講習会等をやっただきながら、農家が減らないように頑張っていただくところが現状です。

相場については、インバウンドの問題もありますが、今は我慢のしどころかと思います。

よろしく願いします。

【田中委員】

私の住んでいる大桑村はもちろんですけど、木曽中歩いてみると水稻の栽培面積が減っており、田んぼが遊んでしまっている田んぼがものすごく多いです。

そばなりに転作する等、他の作物に転換されているというところが少ないように思います。

ただ荒れている、草刈りしている、といったところが大変目立ちます。

私は他の町村のことは分かりませんが、大桑村では農家が自主的に小麦を蒔いてみたり、あるいは地域おこし協力隊の方が小麦の栽培をされていたり。

先日現地を見る会があったのですが、大変省力的で米作りのように水管理をしなくてよく、苗も必要ない。

米ほどに収益性はないかもしれませんが、農地を遊ばせない・遊休化させないという面では、そういった取り組みも少しずつ検討していく必要があるのではないかと最近感じております。

ただ、麦が果たしてよいのかどうかはわかりません。

木曾の気候から見ると、赤さび病が一番問題だということを知りまして、心配な点もあります。

それから、何か月か前にマイコス米という田んぼに水を張らなくても栽培できる米があると聞いていますが、何かできる限り省力的で機械を使って少人数で労力を投入しないでできれば、JA ファームの力を使って組織的にできる方法を検討していただければと思います。

【都竹委員】

木曾郡の農村生活マイスターの視点からですが、現在長野県の農村生活マイスターの会長を兼務させていただいている関係で、長野県全域の農村女性マイスターの方々からの意見を聞いているんですが、高齢化に伴って参加が難しいという条件以外に、色々な農村生活マイスターでの行事であったりとか協議する場があるのですが、大変参集率が厳しい状況にあります。

その背景に、以前は農協と普及センターとで兼業というか横断的に関わっていた生活改善指導員という役職の方が、ここ十数年前になくなり、当時そういった生活改善指導員さんがいた時代には、マイスターの皆さんが積極的に参加して、加工であったり、女性の農業の手法であったり、そういった学ぶ場がたくさんあって、とても有益な機会だったので、積極的に参加してきたんですが、現在の場合は経時的に決まったものを協議する場という組織になりつつある中で、また改めて令和版の生活改善指導員のような専門的に有益な学びの場を提供してくれるような、JA なり県とで共同した方が出ていただければ、また積極的に新しい次の世代の女性農村生活マイスターを育成することで、女性農業者、しいては農業交流人口の場で色々な郷土食体験であったり伝統野菜の保全につながっていくような機会につながるのではないかという意見をたくさん聞いてきましたので、この場で発表させていただきます。

【高橋委員】

農業委員会の立場とすれば、来年の3月いっぱいまでに地域計画を策定しなければならないということで、大きな課題があるわけです。

特に木曾の状況を見ますと、なかなか面積的に集約できない、それから集約してもやる人がいない。

それからまだまだ傾斜が強い、田んぼ等でも法面が多いとか、色々な問題が多く、地域計画の10年後の農業をどうするのか、個々の農家をあたっていきますと、ほとんどが高齢化で10年先は分からない、やめたいと、そういう方がほとんどではないかと思います。

そんな中、地域計画でまた集約ということでございましたが、先ほど奥牧委員も牛を飼っている戸数が減ってきたということで、粗飼料を作る牧草地をだいぶやってきたのですが、それがなくなってきてしまっている。

そんなことを考えますと、なかなか面積的にこなせるのが、今はそばだとか大豆だとか、えごまだとか、そんなことをやっていますが、いずれにしても機械体系のなかで、うまくローテーションをやりながらやっていかないと進まないのかなと思っています。

また、中山間地や多面的機能の支払等もいただいておりますが、なかなか事務局が大変だということで、多面的の水路の関係なんかは辞退するといった話もあるようです。

いずれにしてもこのような形の中で、どうしていけば維持ができるのか、大きな問題になるかと思いますが、農業委員会の中でも、土地の有効利用をしなければいけないということは分かるのですが、パトロールをやったりいろいろしておりますが、先ほどの野口委員の話ではないですが、鳥獣害の被害でもうやめたいよ、といったマイナスの話ばかりになってきてしまっていますので、その辺の対策等もしっかりやっていかないといけないのかなと、そんなことを思っています。

いずれにしても、都会の方というか山間地以外のところは、太陽光を利用したり、いろんな形で転作等をやっておりますが、なかなかそんなわけにはいきませんので、今あるところをどうやって維持管理していくのか、その辺が大きな課題だと思います。

1つは定年制度が、昔は定年してそれから農業をやっていたいただいておりますが、今70歳から75歳ぐらいの方がまだまだ現役で勤めていると。

こうなると農業をやる人が、正直な話いないというのが大きな原因ではないかと思いません。

このような状況の中で、資材が高騰し儲からない。

そんなことの中で農業自体が若干衰退の一途をたどっているのかなと、そんなことを思います。

いずれにしても、各地区の農業委員や推進委員が毎月のように定例会議をやっていますが、悩みは同じでどうしたらいいかというのが問題かと思っています。

とりとめない話ではございますが、いずれにしても色んな団体、それから色々なところで協力体制を組みながらしっかりやっていかないと、木曾も本当に終わってしまうのかなと思いますので、また色々な意味で協議の場になればと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

【大久保委員】

西山地域では多面的機能とか中山間地の事業を活用していて、多面的機能につまましてはもう 10 年以上事業を展開しています。

地域的には農地の維持管理に大きく貢献していただいています。

色々書類等難しいところもあるかもしれないですが、何とかできる人をお願いして、色々やっていただいています。

今後もこの事業の継続はできる限りお願いしたいと思っています。

それと木祖村のような山間地では、昔ながらの地権者に特化した農地で作付けをしている人もかなりいます。

伝統野菜なんかもそうじゃないかと思いますが、専業農家が大型機械で大規模に作っているというものではないと思います。

そういったものを、直売所とか道の駅とか、そういったところでちょっとずつ出している人がたくさんいます。

先ほどから色々お話出てますが、こういった方々が今一番困っているのが、やはり獣害です。

今年は去年まで被害を受けなかったじゃがいもやきゅうりといった作物、また被害を受けなかった場所が被害を受けています。

6月ぐらいから、じゃがいもなんかは作付けした種芋の 20cm くらい芽が出たところを全部猿に引き抜かれて掘られて芋を食べられてしまう。

きゅうりは成ったはじから食べられてしまう。

電気柵等で対応しますけど、低い電気柵だと飛び越えます。

中に入って色々いたずらします。

対策できる人は今、電気柵を7段くらいまで張って2mくらいになります。

このように対策をして、今のところ何とか抑えられているという状況ですが、こういった猿の被害がかなり深刻になっていて、去年あたりからそういう獣害で離農する方も出てきてしまっている、というのが今一番厳しい状況です。

【野口委員】

今農業入門講座をうちで受けさせていただいて、何年かやっています、大勢の方が参加してくれています。

その中で、「うちではサルやイノシシが出てきてしまって、何も作ることができない。だからこういう講座でみんなで集まってやりたい」という人が毎年何名か出てきます。ですので、やる気持ちはあるけどうちではできないような状態になっているのではないかと感じます。

私はいろいろなものを作っています、道の駅へ出しているのですが、果たしてみんなのためになっているか少し心配ですが、それでも次の年になって道の駅へ行ってみますと、参

加された人で出荷している人が何名かいるんです。

ですので、少しは役に立たせてもらっているかな、という思いがあります。

それと、今農協でトマト、モロッコ、なんばんの3品目やっていると思います。

これはとっても良いことだと思うんです。

大々的に作らなくても、ちょっと試しに作ってみて、それが自家消費しきれなければ、農協へ出荷する。

そこで出荷できなかったものは、道の駅へそれなりの値段で出す。

そんなことができるので、ぜひ参加した人にはこんな方法があることを分かってもらってやれたらいいかなと思います。

いろんなものをやるので、ただ一回やったものがその人の勉強になったかどうかは分からないですが、そういう話を聞くと、機会をまた設けてもらったりすればいいかなと思います。

鳥獣害のことを考えると、大々的に田んぼ1枚新しい作物を作るというようなことはできないけど、少しずつでも作ってみて技術を身につけて、次の段階へ進んでいけたらいいかなと思うんです。

それと、新規就農者というのは、どんな規模で作れば新規就農になるのでしょうか。

今移住してこられた方もいます。

自分で米を作って自給自足のような、周りの田んぼ畑を借りてやりたいという人がいるんですが、今その人をとっても大事にしています。

途中で「こんなことやっていられない」という気持ちになられると困るので、「これを植えたらこういう風にするんだよ」というようなことを、手取り足取りのような状態で見ております。

【倉田所長】

新規就農者というのは、私たちの方で調べる新規就農者と、市町村の方で「あなたたちは農業者です」と認定してもらって、就農計画で所得目標を定める新規就農者の2種類あります。

【野口委員】

ではちょっとやってみるといふ人は新規就農者にならない？

【倉田所長】

こちらにご相談していただければ、まずはこの人どういう風にやるのかな、これからどういう風にやりたいのかな、といったことについて意見を聞きながら、兼業農家、農ある暮らし、さらにそういうところからレベルアップしていただいて、少しでも出荷していただくような農家の人たちへ。

先ほど言ってくださったように、直売所へ出す、その次は農協へ出してもらおう。

そのような過程を経ながらご指導はできると思います。
だからぜひご相談をしていただくなり、情報をください。

【野口委員】

田んぼを貸してくれないかというようなことを言っているものですから、地域として大事にしたい。

田んぼは余っているので。

【倉田所長】

それはぜひ、まずは相談していただけたらと思います。

気軽に相談してくれる方が地域にいるというのが非常に大切だと思います。

【野口委員】

良い話になっていくよう努力します。

【村田委員】

今週また食育推進会議というものがあり、各学校の食育について聞いているところで、各学校地産地消だったりだとか、地元野菜を使ったり、子供が栽培したりというので、今すごく食育を頑張っている状況かと思いますが、学校だけでは限界があるというところもあって、地域の方とのつながりがあるとありがたいという風に思っています。

重点取組のすんきづくりの授業とか、プロの方が来てやっていただく取組とか、ありがたいことだなと思っています。

昨年度の重点取組の4のところ、木曾牛とすんき給食をやっていただいて、子供たちも地元の畜産業を知ったりだとか、地産地消につながる良い取り組みだと思いますし、子供たちも木曾牛給食にすごく関心を持ち、すごく楽しみにしているというところもありますので、引き続きこういう取り組みが続いていくといいかなと感じています。

先ほど野菜の話も色々ありましたが、地元の野菜を子供たちに使って給食を作れると、もっともっと子供たちが地産地消というところにつながっていくと思うので、そういうつながりができたらいいかなと感じています。

【富井委員】

木曾地域の重点取組1に対してですが、先ほど高橋委員からもお話がありましたが、農業委員として、営農計画書に基づいて10年先を見据えた意向調査に出かけたことがありまして、私が担当する自分の地区の周りのところへ聞き取りに行ったんですが、10年先やっているだろうと答えた方が2名、後継者がいると答えた方が1名で、あの方々は多分もうやっていないのではないかと、という答えでした。

村としては、基盤整備した土地だけでも頑張っただけで残していきたいという意向があったようですが、基盤整備した土地でさえも、これから先、荒廃農地になっていくのではないかと、この危惧がすごくありまして、今月末に王滝村では農業委員会が開催されるのですが、これから担い手ということを見ると、大変大きな課題があるのではないかと懸念しております。

移住をしてきて農業をやりたいという方も非常に少ないですし、担い手不足というのはこの高齢化に伴いながら、すごく大問題になっていくのではないかと懸念しております。

【田屋部会長】

ありがとうございました。

皆さんそれぞれご意見を賜りまして、ありがとうございました。

最初に奥牧委員が言いました畜産の関係で、これ以上減らしたくないよ、という形でありますが、当初は長野県中央家畜市場を作ったときに、1回の牛市で400頭以上は、という話で作りしました。

それが今300頭そこそこになってきてしまって、数が少なくなってきてしまったということ懸念されているところであります。

もう一つは食肉の処理場との関係で、今松本市とゴミ処理場の関係で移動してくれという話が出ておりまして、それについてはまだはっきりと決まったわけではありませんが、どこへ移設したらいいかということで、もしそれがどこか遠くへ行ってしまうと、市場まで運ぶのに非常にお金がかかってしまうというようなことがあり、非常に懸念材料の一つとなっているところです。

田中委員が言いました、水稲が減っているということですが、一応長野県の中では木曾の水稲面積はこれ以上減らさないということできているわけでありまして、もう少し多面的機能のことをしっかり考慮していただいて、これ以上減らしたくないと思っているところであります。

小麦についても、木曾町で若干作っている人がいます。

私どもの技術員も出荷に対しては検査しなければいけないので、小麦の検査の資格も取ってはありますが、なかなか出荷のところまでいかないというようなところが現状であります。

それから都竹委員が言いました、今までJAや支援センターには生活指導員がいたという話がありました。

全然なくなったわけではありませんが、一応組合課というところでは対応はしていますが、昔ほどしっかりと指導しているかどうかというところは少し疑問になっていて、女性部の活動を専門に。という語弊があるかもしれませんが、そんなことに費やされているような形があります。

高橋議員が言いました地域計画は来年の3月までにしなければいけないところではあります、非常に難しい問題で、人口が減ってくる、農地も減ってくる、また農業者もどんど

ん減ってくるという中で、10年後の木曾はどうなるのだろうか」と悲慘な意見しか出てこないというような中身であります、何とかして計画を一旦作り、それに対応してまたみんな考えていきたいと思っているところでもあります。

大久保委員が言いましたように、獣害について、今まであまり獣害の話は出ませんでした、ここへきてジャガイモやキュウリまでかじられているというような話になると、本当に深刻になってしまって、先日三岳の保育園の話が出まして、トウモロコシが猿に全部やられてしまったという話で、これは切なかったという話を聞きました。

保育園でも来年は作らないという話を言っておりました。

これは深刻な問題で、サルにしてみれば食料の調達には非常に良いかもしれませんが、私ども人間の農業意欲が本当にそがれてしまうということにつながってきますので、何とかして対策をたてたいと思っております。

野口委員がいつている農業講座が非常に有意義で頑張っているということ、嬉しく思います。

私どももミニトマト・モロッコ・黄色い南蛮の3品目について、若干市場の方ではまだ黄色い南蛮の食べ方が分からなかったり、食べたらい辛いという苦情が来たり、その辺が少し難しいところではありますが、苗等については私どもで補助をしておりますので、どんどん増えていけばなと思います。

また、道の駅の出荷者もどんどん減っておりまして、道の駅に行くと木曾以外のものを売っているという話もありまして、本来であればその地域で採れたものを販売したいわけですが、なかなかそういうわけにはいかないというような1つの悩みがあります。また、新規就農者については行政の方でもしっかりと力を入れていただいて、出荷できるように。

専業農家を目指している者には研修制度もありますし、また生活費の助成等々もありますので、その辺も充実させていけたらと思います。

あと村田委員の食育推進会議について、食育教育も小学校や保育園等々の若い皆さんに、どうやったらお米、きゅうり、ジャガイモができる、という話をしているわけですが、一番良いのは収穫から入っていった方が良さだろうということで、ここ数年私どもでトウモロコシの収穫の体験等々を3年～4年やっているわけでありまして、それも今年度も8月にやる予定です。

それから富井委員が言いました、10年先について、非常に悲慘なことしか言いようがないのですが、農業関係の一番の悩みは人手不足・担い手不足で、これは日本だけではないような話をしているわけではありますが、そうはいつでもこの地元で農業は儲かって農業をやると楽しいということが、なかなか伝わっていかない。

農業は大変だ、サルやイノシシに取られてしまうということが先行してしまうと、どうしても農業の楽しさがそがれてしまうというところがあります。

何とかして皆さんのご意見をいただきながら、絞りながらやっていきたいかなと思って

いるわけでありませう。

皆さんからいろいろな意見をいただきました。

これについてのまとめはまた後程でよいですか。

【倉田所長】

食農計画の関係は今部会長さんの方でまとめていただきまして、ありがとうございます。

私の方で少しつけたし等もありますので、一言お話をさせていただければと思います。

奥牧委員から話がありました、やはり一番は繁殖だということですので、繁殖技術講習会につきましては、今年度の計画の中に入っておりますので、それについては取組ませていただきたいと思ひますし、農協とも連携して進めていきます。

田中委員からお話がありました水田面積の関係ですが、当管内では53haを外に出しているというような状況で、一応私たちの管内でまだ53ha作れるということで余力があるわけですが、外へ出してしまうておりますので、できるだけ作っていただきたいというのはもちろんでございます。

麦の関係も、うちの技術担当が個別に指導しまして、農協さんと連携し品種なども選ひながら、今後何に使っていくかということも大切ですので、それについても検討しながら進めております。

都竹委員からお話がありました生活改善指導員について、私達の方は昔の生活改善普及員の枠はなくなり、農業改良普及員が生活改善普及員の業務も兼ねてやるということですので、私たちの方で細かな指導につきまして不足するということは感じているかと思ひますが、こういうことを一緒にやりたいというお話をさせていただければと思ひております。

あと高橋委員からも話がありました、地域計画について、私たちも農協や農業委員と現地の相談会に行きまして、色んな話を聞いております。

色んな品目のなかでどんなものを作たらいいか、というところからまずは入っていくわけですが、機械導入等につきましても、入れられるものがございます。

省力化するためのドローンや無人草刈機等、場所にもよりますが、そういったものを入れていったりすることもできますので、面積的な要件等もありますけれども、ご相談いただければと思ひます。

大久保委員につきましては、自給自足的な人たちが結構来ていらっしゃるということでお話を聞いております。

こういう方たちが農業に対してどんどん取り組んで、気持ちが入っていけるような形で取り組んでいただければと思ひますが、鳥獣の関係でなかなか困っているという話です。先ほど部会長からも話があったわけですが、鳥獣で困っていることについては地域で話し合ってもらって、多面的機能支払や中山間直払等のお金を活用しながら、鳥獣害の防護策を検討していただければと思ひております。

野口委員のお話につきましては先ほどお話しした担い手の関係、村田委員につきまして

は学校給食という食の関係をやっていらっしゃるようです。

全県的にも全国的にも食育が非常に見直されておりまして、今後農家の方たちの取組や、地域にどんな野菜があってどのように使われていてどんな時期にどんなものができるか、農協からも非常に指導していただいていると思いますが、その辺についてもぜひどんな情報が欲しいか言っていただければ、こちらの方でも準備しようと思っておりますので、よろしく願いいたします。

富井委員につきましては、10年先の地域計画について、どこも悩んでいるようでありますが、私たちも非常に悩んでおりまして、行き先も考えていかなければなりません、これから先の人口減少対策の話もありますので、そこでも農家だけで考えるのではなく、地域全体で考えていかなければいけないというところもございます。

それについてもぜひご助言をいただきたいと思います。

農家の方たちだけではなかなか立ちいかない部分もありますので、ぜひご助言をいただければと思います。

少しお話をさせていただきました、ありがとうございます。

【田屋部会長】

ありがとうございました。

委員の皆さんからこれだけは言い残したいことはありますか。

【田中委員】

令和6年度の計画の中でも、中山間地直接支払の拡大が加わっておりますが、私も地区の中山間地の協定の役員をしている関係上、悩ましいことが1つありまして、交付金の入金時期が9月末から10月頃になります。

実績報告は1月頃に役場の方から提出しろと言ってくる。

なおかつ、資金は全部使い切りなさいと言われてるわけです。

数カ月でしかも農繁期ではない農閑期に全部金を使え、しかも実績報告をしろ、それで年度当初にお金が入るならいいのですが、どうやってやったらいいか大変悩ましいところです。

実際には繰越金を認めていただいて仕事をしている。

協定によって何をするかはまちまちだと思いますが、私たちのところではどちらかというと水路を直すといった土木工事が多いです。

自分たちでできる範囲のものならいいのですが、業者に頼んだりしないとできない部分もあったりして、実のところ、前年の繰越金を使ってやっていたところが、今年資金がなくなってしまう、業者には半分払うから10月まで待ってくれと、何とかお願いをしてという情報もあるわけです。

うまく運用していく方法があれば知恵をお借りしたいと思います。

【太田係長】

ありがとうございます。

毎年度計画を作って実績時に交付金の処理という流れになっていますが、当初から積み立てる金額、また翌年に繰り越す金額をある程度見越したうえで計画を作っていただければ、無理に年度内に使い切らなくても大丈夫です。

実際には半分は個人配分、半分は積み立て、また、いくらか次年度の当初活動分を繰り越すという取り組みをされている箇所もございますので、詳しくはご相談いただければ、どういった対応がいいのか一緒に検討させていただきます。

また来年度以降、新たな対策に移りますが、そういった工事関係で金額が大きいものについては、積み立てを続けていくという対応も可能ですので、ご相談ください。

【田中委員】

ありがとうございます。

【田屋部会長】

他によろしいですか。

では次へ進めさせていただきます。

続きまして、会議事項の3番目ではありますが、少子化・人口減少に対する意見・提言について移ってまいりたいと思いますので、資料の説明をよろしくお願いいたします。

[少子化・人口減少に対する意見・提言について] (資料3) (説明：太田係長)

【田屋部会長】

ありがとうございます。

ただいまの説明や、日頃からテレビ・新聞・ネット等で取り上げられる中で、農業農村に限らず、今後想定される課題や皆さんの集落の姿をどうしていったら良いかということ、またそのためにどのような行動が必要なのかということについて、皆さんの意見をいただきたいと思います。

時間の関係もありますので、順番に2～3分でご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【奥牧委員】

これについてコメントはありません。

【田中委員】

大変将来に希望を持ってないデータを見させていただきました。

私もコメントを持ってないです。

ただ、私たちの世代は、女性は家事で男は外で働くというような固定観念があり、自分もそういうやり方でやってきたので他人事みたいなことを言ってしまうの言いにくいのですが、考え方や発想自体を変えていかないとダメかもしれないですね。

男女協力していけるような社会にしないと。

【都竹委員】

2100年は多分誰も生きていないと思うのですが、自分たちのひ孫だったり孫だったり生きていく時代を考えたときに、本を最近読んでいの中で、江戸時代よりは人口が多くて、木曾郡が筑摩郡だった時代の産業を見ると、農業であったり、ここではお酒やお味噌とかそういう伝統的な産業というものは、やはり時代がどんなに淘汰しても生きていく上で決して絶えることではないことなので、いわゆる百姓のような生き方が長く続けられる地域というのは、木曾地域ならではの特性であり、魅力でもあると思うので、今はすごく資本主義でお金を稼ぐということが成功者のような扱い方がマスコミでは多いですけども、その豊かさの指針を、暮らしの豊かさ、自分たちの食べるものや暮らしというものを作り上げるという価値観が、自分たちで作り出せる地域という打ち出し方で、そこに共感してもらえる人たちをどんどんコミュニティとして広げていくことができれば。

自分たちはいなくても孫やひ孫のような子供たちが希望を持てるような施策を、私たち大人が持っていかないといけないという責任を感じております。

【高橋委員】

実は県の農業委員会でも、この問題を県の担当者が説明して帰りました。

次回までにまた皆さんの意見があったらという話でございましたが、今更なぜ県が来てこういう説明をしなければいけないのか。

日本全体の中でも、少子化と高齢化に色んな補助金を出しながらやっているが、それを今度は末端の組織に話を持ってきて、色んな意見を出して何とかしてくれと、こういう話になると私個人としては矛盾を感じます。

木曾の中でも、木祖村以外は消滅町村になるという話も出ていましたが、いずれにしても、国の施策・県の施策をやらないと、もうバラマキでは駄目だと思います。

ですから、このような言い方が良いのか悪いのか分かりませんが、女性が働かなくても、それだけで子供を育てていける、そんなところがどんどんできれば、少子化対策が打てるのかなと思います。

いずれにしても、皆さんは今お金を稼がなきゃいけない、共稼ぎが多くなる、そのような中ですから、そういうものをなくすような施策をやる。

それから、農協も先ほど部会長が言っていました、農協組織だって検討してもらわない

と、この先いならいのではないか。

町村も合併して郡で1つあればいいのではないか。

いろんなものを1つに集約して経費が掛からないようにし、その分を住民にしっかり手当として支給するなり、良い方向になっていただければ一番良いのではないかと思います。

検討検討で、恐らく検討している間にほとんど人が亡くなってしまおうと思います。今日のこの会議もそうですが、どういうこととどういことをやったのですか、と聞きたいのですが、実際には誰もやっていない、そんな会議になってしまってるのではないか。やればそれでいいのか。

実績が出る組織づくりなり会議をしっかりやっていただかないと、今後ますます減少問題が永遠に続き、人口も増えない、そういうことになると思います。

いずれにしても、色んなところから来て、1ターンで住んでいただける、木曾へ来れば移住生活は全部タダですよ、子供3人産んでいただければいいですよ、という感じになれば、それは人口が増えると思いますが、恐らく今のままでは、学校も統合統合となってしまうと思いますし、いろんな問題があって本当にさみしい限りの話題になってしまいます。

これらを抜根的に改革するにはどこをどうすれば良いかというのは、結論の出ないことだと思いますので、それぞれの方がそれぞれの場所で、地域で検討してもらってやるしかないと思います。

よろしくお願ひしたいと思います。

【大久保委員】

私も高齢者の仲間入りしてしまったわけですが、これから私のような高齢者がどんどん増えていきますね。

その反面、やはり子供がどんどん少なくなっている。

出生率も過去最低みたいな日本の状況ですよ。

やはり若い方・子育て世代への支援を手厚くするというのをやっていかなければ駄目だと思う。

それと、東京一極集中みたいな感じで集中したところは、色々弊害も出てくるのではないかと思います。

長野県なんかは移住したい県とか住んでみたい県といったランキングで大体上位にくる県だと思います。

県としてもそのような移住世帯、特に若い方の1ターンのような、特に若い世代の人たちへの移住支援を手厚くして、良いところであるとPRして、そういったこともやっていかなければ、なかなか地方の人口は増えてこないのではないかと思います。

地方の人口も増えてくれば、全体的に日本の人口も若干なり増えていく気はします。

【野口委員】

周りを見ても毎年毎年減っていく一方ですが、中には移住で来てくれる人もいます。

なので、外へ出る人は止められなくても、そこが良くて住みたいという人たちがいたら、そういう人たちが来やすい条件を作り、迎え入れる。

空き家はたくさんありますが、見に来たら古いままになっていて、紹介はしてくれても住むのに 1000 万円以上かかるような状態のところには、若い人たちは絶対に来ないので、制度があれば、来たら明日からでも住めるような住宅を備えて、来たい人がいたら来てもらったらいいのではないかと思います。

私たちもいつまでこの結果が見れるか分かりませんが、自分たちの暮らしだけは守っていきたいと思います。

【村田委員】

ありきたりなことしか言えませんが、今年三岳小の 1 年生は 3 人しかいなくて、少子化をすごく感じています。

私も王滝村出身ですが、地元に戻ってくる子も少なくなってきたと感じています。地元の人たちが戻ってくるような仕事がなかなかないというところと、子供を育てやすいような子育て支援だったりだとか、先ほども話がありましたが、木曽地域の良さとか都会にない良さ、農業であったりだとか、自分で作ったものを食べたりだとか。

東京等に出ると住むにもすごくお金がかかるので、そういうところにお金がかからない、といった良さをもう少しアピールしてやっていったら良いかなと思いましたけど、難しい問題だと感じています。

【富井委員】

私もこういう数字を見ていると、本当に行き先不安な部分もありますが、私は冬の仕事でスキー場に勤務していて、この 4 月から 4 人移住してきました。

株式会社シシというスキー場の会社に就職して、2 夫婦ですが、1 夫婦は村営住宅に入り、1 夫婦は別荘を買って、という 30 代の若い 4 人です。

スキー・スノボがたくてこういうところに住みたくて、仕事もあってということで、でもスキー場の経営も大変厳しい状況になっていて、指定管理あと何年という期間があるのですが、もしそういう人たちを引き留められる魅力なもの、例えば今日も移住してきた女性と畑仕事をしてきましたが、初めて芋ほりをしたということで、「こんな風になっているんだね。楽しいでしょ？楽しいでしょ？」と言い聞かせてみたんですが、せっかく移住してきてくれた人たちの定住についても、行政含めて色んな所から考えていった方が良くないかと思っています。

【田屋部会長】

ありがとうございます。

非常に難しい問題について、みなさんからご意見をいただきました。
これまで出された意見提言について、事務局から返答等ができれば。

【倉田所長】

非常に重い話になりまして、今日の資料も実は県の資料と郡の資料を併せて係長が作ってくれたんですけれども、郡の資料は見てのとおり町村ごとに細かなデータが出ております。

それをもって皆様に意見を聞こうと思ったわけですが、ちょっと重かったようでございますけれども、実は若手職員が高校や看護学校で意見を色々聞いてきた経過がありますが、子供たちには子供たちの考え方があって、子育て等そこまで頭が回っていないところもあります。自分たちが生活するのに遊ぶ場所がないとか、楽しい場所がない、居場所がない、といった話が出てきたところもあるようです。

若者たちがこれから先、自分たちがここに帰ってきたいということをどういう風に求めているか、まとまった結果が出れば皆様にも流せる機会があればと思います。

今日お話があった中にもとてもいい話があったと思うんですけど、豊かさとは何か、価値観とは何か、あとコミュニティを広げていく、といった話もありましたし、「芋ほり楽しかった」というように、要はそばに来た人に寄り添ってその人たちに話ができるということが非常に大切だということが分かりましたので、そういうことも今回の意見の中に集約させてもらうような形になると思います、ありがとうございました。

なかなか難しかったと思いますけど、ありがとうございました。

【田屋部会長】

ありがとうございました。

本当に難しい問題ではありますけど、他地域では対策として良い例もあります。

先ほどお話がありました、子育てにお金がかかることについてしっかりとした支援をするとか、定住するための住むところを提供してやるとか。

普通の古い家だと、そのまますぐ入るには1000万円2000万円かかって下水道から何から整備しなければならないという話ですから。

今松本市や長野市で高層マンションが建っていますが、一番高い上層で募集が1億ですよ。

そういう人もいますので、町村もしっかり考えてもらって、住めるような住宅にしてもらうと来る人もいます。

また、医療費の関係や学費の関係も対策を打っていただきたいと思いますし、昔みたいにお節介ばあさんみたいなものが少なくなってしまったんですよ。

地域に独身の女性・男性がいると「こういう人いるからどうだ？」というおばさんがいましたが、今そういう人もなかなかいなくなってしまって、昔みたいに結婚相談員み

たいな位置づけもあったんですけど、なかなか話がまとめられなくて、若者の志向と合わないというところもあって、その辺が少し難しいですけども、このまま人口が減らないということはないので、200歳まで生きれば人口は減っていかないんですけど、高齢になって 亡くなる人もいますので、難しいことではありますけど、なにか策をして出生率を上げていくことが非常に大事なことかと思えます。

それには町村もしっかりお金を使わないとダメだと思います。そこへ資金を投入して、来た人や定住してくれる人にしっかりとした支援をしていくということも大事なかなと思います。

他に委員の皆さんで、これだけはこの意見がありましたら…よろしいですかね。

それでは予定した時刻になりましたので、出されました意見を事務局で取りまとめていただき、県の審議会で報告をお願いしたいと思います。

本日の会議はこれまでとしてよろしいでしょうか。

何か意見があれば…よろしいですか。

ないようですので、本日の予定は以上でございますので、協議については終了させていただきます。

委員の皆様には熱心にご意見いただきまして、ありがとうございます。

これをもって議長を退任させていただきます。

ご協力ありがとうございました。

[その他（事務局からアンケート協力を依頼）]

【倉田所長】

ありがとうございました。

委員の皆様、非常に熱心に意見をいただきまして、ありがとうございます。

お出しいただいた意見につきましては、まとめて県の審議にあげさせていただきます。

また、前年度の質問に対する答えができてないのではないかという意見もあり、今後必要な対応をさせていただきたいと思えます。

本日の議事録ですが、後日内容を確認いただいた後で、振興局のHPで公表させていただきます。

また、県の方へも上げさせてもらって、皆様の意見を県の方につなげさせていただきますので、本日はありがとうございました。

それではこれで閉会といたします。ありがとうございました。

閉会 15：30